

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラム

1. 理念と使命

(1) 泌尿器科専門研修プログラムの目的

泌尿器科専門医制度は、医の倫理に基づいた医療の実践を体得し、高度の泌尿器科専門知識と技能とともに地域医療にも対応できる総合的診療に必要な基本的臨床能力を修得した泌尿器科専門医の育成を図り、国民の健康増進、医療の向上に貢献することを目的とする。特に、本プログラムの目的は、基幹施設である関西医科大学附属病院腎泌尿器外科において先進医療を学ぶとともに、地域医療を担う連携病院で一般泌尿器科診療の研鑽を積み、診療、教育、研究に貢献する泌尿器科医の育成を行うことにある。

(2) 泌尿器科専門医の使命

泌尿器科専門医は小児から成人に至る様々な泌尿器疾患、ならびに我が国の高齢化に伴い増加が予想される排尿障害、尿路性器悪性腫瘍、慢性腎疾患などに対する専門的知識と診療技能を持ちつつ、高齢者に多い一般的な併存疾患にも独自に対応でき、必要に応じて地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を備えた医師です。泌尿器科専門医はこれらの診療を実践し、総合的診療能力も兼ね備えることによって社会に対する責務を果たし、地域医療にも配慮した国民の健康・福祉の増進に貢献します。

2. 専門研修の目標

専攻医はこの泌尿器科研修プログラムによる専門研修により、「泌尿器科医は超高齢社会の総合的な医療ニーズに対応しつつ泌尿器科領域における幅広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備えた医師である」という基本的姿勢のもと、

1. 泌尿器科専門知識
2. 泌尿器科専門技能：診察・検査・診断・処置・手術
3. 継続的な科学的探求心の涵養
4. 倫理観と医療のプロフェッショナリズム

の4つのコアコンピテンシーからなる資質を備えた泌尿器科専門医になることを目指している。また、各コアコンピテンシーにおける一般目標、知識、診療技能、態度に関する到達目標が設定されている。

研修記録簿の「泌尿器科専門医のための研修目標」（20～29頁）（日本泌尿器科学会ウェブサイト <https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf> に掲載）を参照のこと。

3. 関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムの特色

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムは、関西医科大学附属病院を基幹施設とし、9の連携施設と3つの協力施設から構成されている。関西医科大学泌尿器科研修プログラムの連携施設と協力施設は都会拠点病院、都会診療所、を含み、幅広い研修が可能である。基幹施設を中心に、ロボット支援手術や腹腔鏡手術などの最先端医療、小児泌尿器科、女性泌尿器科、透析医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能であり、これらの施設で質、量ともに十分な研修を受けることができる。サブスペシャリティ領域の研修も十分に経験可能である。さらに、基幹施設である関西医科大学附属病院腎泌尿器外科では、臨床研究や基礎研究を行うこともできる。また専門研修後には、希望により、大学院への進学や専門分野の研修の機会も準備されている。

4. 募集専攻医数

平成29年4月開始の専攻医については、上限を定めない。2017年度の募集に関しては柔軟に対応する。

5. 専門知識・専門技能の習得計画

(1) 研修段階の定義

泌尿器科専門医は、2年間の初期臨床研修が終了し、後期研修が開始した段階から開始され4年間の研修で育成される。基本的には4年間のうち1年次の研修を基幹施設（関西医科大学附属病院腎泌尿器外科）で行い、その後2年次、3年次の研修は連携施設の中でも特に症例の多い拠点病院で行う。4年次の研修は基幹施設で行い、希望があれば研修4年目から大学院に進学することが可能である。

(2) 研修期間中に習得すべき専門知識と専門技能

専門研修では、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と日本泌尿器科学会が定める「研修記録簿」にもとづいて泌尿器科専門医に求められる知識・技術の修得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮する。本プログラムでは、単に知識と技能の獲得のみならず、個々の症例の診療に従事するなかで、指導医とともに考え、後輩を指導することにより、獲得した知識・技能を幅広く応用する能力を磨くことを重視している。具体的な評価方法は後の項目で示す。

① 専門知識

泌尿器科領域では発生学・局所解剖・生殖生理・感染症・腎生理学・内分泌学の6領域での包括的な知識を獲得する。詳細は研修記録簿の「目標1 基本知識：学ばねばなら

ない基本的知識」(21～22頁)(日本泌尿器科学会ウェブサイト

<https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf>に掲載)を参照のこと。

さらに泌尿器科領域における個別疾患の疫学、病態、検査、診断、治療法、病理に関する専門知識を獲得する。

② 専門技能

泌尿器科領域では、鑑別診断のための各種症状・徴候の判断、診察法・検査の習熟と臨床応用、手術適応の決定や手技の習得と周術期の管理、を実践するための技能を獲得する。詳細は研修記録簿の「目標2 診療技術」「目標3 手術、処置手技」(23～26頁)(日本泌尿器科学会ウェブサイト

<https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf>に掲載)を参照のこと。

③ 経験すべき疾患・病態の目標

泌尿器科領域では、腎・尿路・男性生殖器ならびに関連臓器に関する、先天異常、外傷・損傷、良性・悪性腫瘍、尿路結石症、内分泌疾患、男性不妊症、性機能障害、感染症、下部尿路機能障害、女性泌尿器疾患、神経性疾患、慢性・急性腎不全、小児泌尿器疾患などの疾患について経験する。詳細は研修記録簿の「II. 経験目標」(30～33頁)(日本泌尿器科学会ウェブサイト

<https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf>に掲載)を参照のこと。

④ 経験すべき診察・検査

泌尿器科領域では、内視鏡検査、超音波検査、ウロダイナミクス、前立腺生検、各種画像検査などについて、実施あるいは指示し、結果を評価・判定することを経験する。詳細は研修記録簿の「目標2 診療技術」(24～25頁)(日本泌尿器科学会ウェブサイト

<https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf>に掲載)を参照のこと。

⑤ 経験すべき手術・処置

泌尿器科領域では、経験すべき手術件数は以下のとおりとする。

A. 一般的な手術に関する項目

下記の4領域において、術者として経験すべき症例数が各領域5例以上かつ合計50例以上であること。

- ・副腎、腎、後腹膜の手術
- ・尿管、膀胱の手術
- ・前立腺、尿道の手術
- ・陰嚢内容臓器、陰茎の手術

B. 専門的な手術に関する項目

下記の7領域において、術者あるいは助手として経験すべき症例数が1領域10例以上を最低2領域かつ合計30例以上であること。

- ・腎移植・透析関連の手術
- ・小児泌尿器関連の手術
- ・女性泌尿器関連の手術
- ・ED、不妊関連の手術

- ・結石関連の手術
- ・神経泌尿器・臓器再建関連の手術
- ・腹腔鏡・腹腔鏡下小切開・ロボット支援関連の手術

詳細は研修記録簿の「手術に関する研修記録」(38～51頁)(日本泌尿器科学会ウェブサイト<https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf>に掲載)を参照のこと。

C. 全身管理

入院患者に関して術前術後の全身管理と対応を行う。詳細は研修記録簿の「目標3 手術、処置手技」(26頁)(日本泌尿器科学会ウェブサイト

<https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf>に掲載)を参照のこと。

D. 処置

泌尿器科に特有な処置として以下のものを経験する。詳細は研修記録簿の「目標3 手術、処置手技」(26頁)(日本泌尿器科学会ウェブサイト

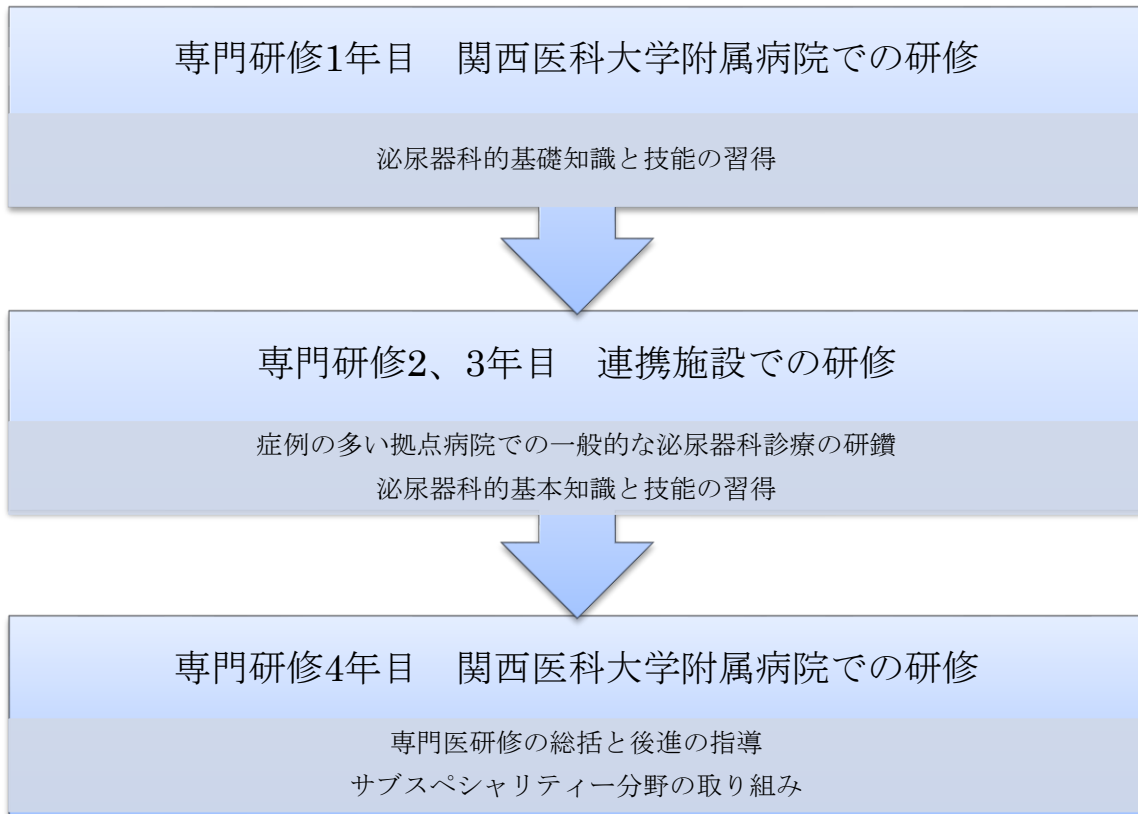
<https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf>に掲載)を参照のこと。

- 1) 膀胱タンポナーデ
 - ・凝血塊除去術
 - ・経尿道的膀胱凝固術
- 2) 急性尿閉
 - ・経皮的膀胱瘻造設術
- 3) 急性腎不全
 - ・急性血液浄化法
 - ・double-Jカテーテル留置
 - ・経皮的腎瘻造設術

(3) 年次毎の専門研修計画

専攻医の研修は毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められる。関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムにおける年次毎の研修目標と修練の内容を以下のように設定する。4年間の専門医研修期間中、1年次および4年次の2年間は原則として基幹施設である関西医科大学附属病院腎泌尿器外科において研修を行う。

以下に4年間の研修の概略を示す。



① 専門研修1年目

- 1) 専門研修1年目では基本的診療能力および泌尿器科的基本的知識と技能の習得を目標とする。
- 2) 原則として研修基幹施設である関西医科大学附属病院での研修になる。
- 3) 病棟における入院患者の診療を通じて、泌尿器科専門知識、技能、態度について研修する。
- 4) 経験できなかった疾患に関する知識等については、各種診療ガイドラインを用いた学習や日本泌尿器科学会や関連学会等に参加することによって、より実践的な知識を習得できるように指導する。
- 5) 抄読会や勉強会での発表、学会や研究会などで症例報告などを積極的に行うよう指導する。

1年次研修病院	専攻医の研修内容	手術
関西医科大学附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器科専門知識として発生学、局所解剖、生殖生理、感染症、腎生理学、内分泌学を学ぶ。 ・泌尿器科専門技能として症状・徴候からの鑑別診断、泌尿器科診察に必要な診察法・検査法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者・家族に対する適切な手術説明・インフォームドコンセントの方法を修得する。 ・疾患と患者の医学的背景に応じた適切な手術方法の選択を学ぶ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の全人的な理解、患者・家族との良好な人間関係の構築を修得する。 ・医師、メディカルスタッフによるチーム医療の実践、保健・医療・福祉の幅広い職種との協調を修得する。 ・医療安全、院内感染制御の基本を修得し、実践すると共に、これらに関する院内活動に参画する。 ・臨床研究を行い学会発表、論文発表を行う。特に、関西地方会では必ず症例報告を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・術式を理解し、一般的手術の執刀、専門的手術への助手としての参加を行う。 ・周術期患者の術前・術後管理、全身管理を学ぶ。 <p>A 一般的な手術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経皮的腎瘻造設術 ・経尿道的膀胱腫瘍切除術 ・経尿道的膀胱異物除去術 ・膀胱瘻造設術 ・膀胱水圧拡張術 ・経尿道的前立腺切除術 ・経尿道的内尿道切開術 ・尿道全摘術 ・精巣固定術 ・精巣捻転手術 ・精巣摘除術 ・精巣水腫根治術 など <p>B 専門的な手術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経尿道的膀胱碎石術 ・体外衝撃波碎石術 ・膀胱切石術 ・尿管皮膚瘻造設術 ・回腸導管造設術 など
--	---	--

②専門研修2-3年目

- 1) 専門研修の2-3年目は基本的には研修連携施設での研修となる。一般的な泌尿器科疾患、泌尿器科処置あるいは手術について重点的に学ぶことが可能である。
- 2) 既に修得した知識・技能・態度の水準をさらに高められるように指導する。
- 3) 一般的手術の執刀を行うとともに、指導医のもとで専門的手術の執刀、助手を行う。
- 4) チーム医療において下位の専攻医の教育・指導を行う。
- 5) 外来を受け持つ。入院時の担当患者を中心に少人数から始める。
- 6) 抄読会や勉強会での発表、学会や研究会などで症例報告などを積極的に行うよう指導する。また、臨床研究への参加、筆頭著者として症例報告の執筆を行うよう指導する。

2、3年次 研修病院	専攻医の研修内容	手術
連携施設	<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器科専門知識として発生学、局所解剖、生殖生理、感染症、腎生理学、内分泌学を熟知し、実臨床に応用することができる。 ・泌尿器科専門技能として症状・徴候からの鑑別診断、泌尿器科診察に必要な診察法・検査法を熟知し、臨床応用ができる。 ・泌尿器科検査の指示、依頼を行い、または指導医のもとで実施し、自ら結果を評価できる。 ・入院患者に対し術前後の基本的な全身管理が行える。 ・外来診療を行う。 ・膀胱タンポナーデ、急性尿閉、急性腎不全に対する対応が可能となる。 ・患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。 ・臨床研究を行い学会発表、論文発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的手術の術式を理解し、適切に適応を選択した上で、患者・家族に説明することができる。 ・専門的手術について周術期の全身管理と対応ができる。 <p>A 一般的な手術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副腎摘除術 ・単純腎摘除術 ・根治的腎摘除術 ・腎部分切除術 ・腎尿管全摘術 ・後腹膜腫瘍摘除術 ・膀胱全摘術 ・尿膜管摘除術 ・前立腺被膜下摘除術 ・前立腺全摘除術 ・陰茎部分切除術 ・陰茎全摘術 など <p>B 専門的な手術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VUR 防止術 ・腎盂形成術 ・尿管膀胱新吻合術 ・経尿道的尿管碎石術 ・経皮的腎碎石術 ・腹腔鏡下副腎摘除術 ・腹腔鏡下腎摘除術 ・ロボット支援前立腺全摘術

③ 専門研修4年目

- 1) 専門研修の4年目は研修基幹施設に戻っての研修となります。泌尿器科の実践的知識・技能の習得により様々な泌尿器科疾患へ対応する力量を養うことを目標とする。
- 2) 専門知識、技能、態度について、全ての項目が達成できていることを確認し、それらの水準をさらに高められるように指導する。
- 3) 1年次、2年次の専攻医を指導する機会を積極的に持たせ、指導を通じて自身の知識・技能・態度の向上にフィードバックする。

4) サブスペシャリティー領域の専門医を取得する希望があれば、その領域に関連する疾患や技能をより多く経験できるように調整する。

5) 専門医が不在の病院あるいは診療所で泌尿器科診療を実施する機会を持たせ、地域医療に貢献することを通じて、泌尿器科専門医の使命について自覚を持たせる。

4年次研修病院	専攻医の研修内容	手術
関西医科大学附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ・2-3年目での連携病院における一般的泌尿器疾患に対する経験をもとにさらに専門性の高いあるいは複雑な症例に対するマネジメントを習得する。最先端医療である尿路生殖器悪性腫瘍に対する腹腔鏡下、ロボット支援手術に対する経験を深める。 ・医療チームのリーダーとしての役割を果たすように自己研鑽に努める。 ・1年次、2年次、3年次専攻医の指導を行う。 ・外来診療を行う。 ・サブスペシャリティー領域の専門医を取得する希望があれば、その領域に関連する疾患や技能をより多く経験できるように調整する。 ・臨床研究を行い学会発表、論文発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医の指導のもとに、手術の適応、術式の選択、手術計画を立て、手術の執刀、周術期管理を、医療チームの中心として遂行できる能力を習得する。 A 一般的な手術 ・副腎摘除術 ・単純腎摘除術 ・根治的腎摘除術 ・腎部分切除術 ・腎尿管全摘術 ・後腹膜腫瘍摘除術 ・膀胱全摘術 ・尿膜管摘除術 ・前立腺被膜下摘除術 ・前立腺全摘除術 ・陰茎部分切除術 ・陰茎全摘術 など B 専門的な手術 ・VUR 防止術 ・腎盂形成術 ・尿管膀胱新吻合術 ・経尿道的尿管碎石術 ・経皮的腎碎石術 ・腹腔鏡下副腎摘除術 ・腹腔鏡下腎摘除術 ・ロボット支援前立腺全摘術

(4) 臨床現場での学習

bed-sideや実際の手術での実地修練(on-the-job training)に加えて、広く臨床現場での学習が可能となるように指導する。研修カリキュラムに基づき関西医科大学泌尿器科研修プログラムでは以下のような指導を行う。

- 1) 診療科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンスを通して病態と診断過程を深く理解し、治療計画作成の理論を学ぶ。
- 2) 抄読会や勉強会を実施し、インターネットによる情報検索の指導を行う。
- 3) hands-on-training として積極的に手術の助手を経験させる。その際に術前のイメージトレーニングと術後の詳細な手術記録を実行する。
- 4) 手術手技をトレーニングする設備や教育ビデオなどの充実を図る。

基幹施設（関西医科大学附属病院腎泌尿器外科）の1週間の具体的なスケジュールを以下に示す。

時間	月	火	水	木	金	土(1 3 5)
朝	受持患者 回診	受持患者 回診	受持患者 回診	受持患者 回診	受持患者 回診	
8:00	症例カンファ レンス	抄読会 (8:30)		症例カンファ レンス	医局会 教授回診	
9:00	手術/外来/検 査 / 病 棟 回 診・処置	手術/検査/病棟 回診・処置	手術/外来/検査 /病棟回診・処置	手術/検査/病 棟回診・処置	手術/外来/検 査 / 病 棟 回 診・処置	外来/検査 /病棟回診 /検査
午後	検査等	手術/検査	手術/検査	手術/検査	手術/検査	
	チームカンフ ァレンス	チームカンファ レンス	チームカンファ レンス	チームカンフ ァレンス	チームカンフ ァレンス	

- ・ 各専攻医は、2、3名の医師からなる診療チームに所属し、チーム医療における構成員として専門知識・技能の習得を行う。
- ・ 朝8:00から（月、木）の症例カンファレンスにおいて、入院および外来患者で検討が必要な症例に関して症例提示を行い、全員で討論して治療方針を決定する。この際にCT、MRIなど画像診断を行い、読影技術を習得する。手術症例に関しては術前の評価および術式に関して検討を行う。各チームの医師は割り当てられた症例について、EBMにもとづいた医療が実践できるようチーム内で診断・治療戦略を検討したうえで、理論的に症例提示すること。
- ・ 金曜日の教授回診に参加し、各症例のプレゼンテーションを行うことでプログラム統括責任者から直接指導を受ける。
- ・ 火曜日に抄読会を開催する。自分で選んだ英語原著論文を精読し、その要約を参加者全員にプレゼンテーションする。
- ・ 各チームは毎日チームカンファレンスを行い、チーム内の全患者について臨床経過の検討を行う。

(5) 臨床現場を離れた学習

優れた泌尿器科専門医育成のためには、幅広い知識や情報の収集が必要である。このために、日本泌尿器科学会の学術集会や関連学会、基幹施設・連携施設における各種研修セミナーなどに参加して、臨床現場を離れて下記の事項を学習するよう努める。

- ・ 国内外の標準的治療および先進的・研究的治療
- ・ 医療安全、医療倫理、感染管理等
- ・ 指導・教育法、評価法（eラーニングも含む）

具体的な学会としては泌尿器科学会総会、中部総会へ参加し、学術発表を行う。関西地方会での症例報告は必須とする。また各学会では卒後教育プログラムが開催されているのでこれらを積極的に受講する。さらにサブスペシャリティ領域の学会（泌尿器内視鏡学会、排尿機能学会、がん治療学会など）への参加も奨励される。

関西医科大学附属病院のシミュレーションセンターが随時利用可能である。ここで腹腔鏡手術や内視鏡手術のhands-on-trainingを行い、技術の向上を目指すことができる。

関西医科大学附属病院腎泌尿器外科医局には現在までに施行された腹腔鏡手術・ロボット補助手術のビデオをライブラリーとして保管しており、いつでも参照することが可能である。

(6) 自己学習

研修する施設の規模や疾患の希少性により専門研修期間内に研修カリキュラムに記載されている疾患、病態を全て経験することは出来ない可能性がある。このような場合は以下のような機会を利用して理解を深める。該当疾患に関するレポートを作成し指導医による指導を受ける。

- ・ 日本泌尿器科学会および支部総会での卒後教育プログラムへの参加
- ・ 日本泌尿器科学会で作成されているAudio Visual Journal of JUAの閲覧
- ・ 日本泌尿器科学会ならびに関連学会で作成している各種診療ガイドライン
- ・ インターネットを通じての文献検索（医学中央雑誌やPub MedあるいはUp To Dateのような電子媒体）
- ・ 専門医試験を視野に入れた自己学習

6. プログラム全体と各施設によるカンファレンス

(1) 基幹施設でのカンファレンス

基幹施設では以下のカンファレンスを行っている。

1) 朝の症例カンファレンス

月曜日：その週に行う前立腺生検症例およびその週に入院予定の症例について全員で検討する。また、入院患者の中で検討が必要な症例があれば、適宜検査方針・治療方針を検討する。

木曜日：2週間後の手術症例を中心に、診断困難あるいは治療方針決定が難しい外来症例について、検査結果の解釈、治療方針を全員で検討する。

これらのカンファレンスの際、専攻医はチーム内で最善と考えた診断・治療プランについて短時間で論理的な症例提示を行い、プレゼンテーション技術を習得する。同時に、CT、MRI など画像診断を行い、読影技術を習得する。手術症例に関しては術前の評価および術式に関して検討を行う。

2) 毎日のチームカンファレンス

基幹施設では、2-3名の医師からなる4-5チームで外来、入院診療に当たっている。入院中の患者については、朝の回診を行った後、患者の状態の把握、検査プラン、治療方針を適宜検討確認する。専攻医はいずれかのチームに属し、チーム医療における構成員として専門知識・技能を習得する。チーム内での情報共有と症例検討を行い、プレゼンテーション技能、コミュニケーション技能、診療技術などを学習する。適宜、看護師、薬剤師とも患者の状況・治療方針などについて話し合い、情報共有を行う。

3) 火曜日の抄読会

自分で選んだ英語原著論文を精読し、その要約を参加者全員にプレゼンテーションする。

4) 月1回火曜日に保険診療についてのカンファレンス

入院外来患者の保険診療の査定、返戻について、医事課とともに検討を行う。この場で、保険診療についての知識を習得する。

5) 随時施行される医療安全講習会、感染症講演会、医療倫理講演会、臨床研究に関連する講演会などに参加する。これらは年間の受講数が定められている。

6) MM(mortality and morbidity)カンファレンス

随時行う。月曜日朝のカンファレンス内で。

7) 金曜日の医局会

医局全体の連絡事項、医局内のプロトコールなどの確認を行う。

(2) プログラム全体でのカンファレンス

専門研修プログラム管理委員会が年1回開催され、それに引き続き全体でのカンファレンスを開催する。全連携施設における現状報告（外来患者数、手術件数、学会発表や臨床研究の紹介）と基幹施設、全連携施設での困難症例などについての検討・討論を行う。さらに、医療の様々な分野のオピニオンリーダーを一人招へいし、1時間程度の講演を依頼している。このカンファレンスにより専攻医は連携施設の様々な情報を得ることが可能である。

毎年、2月に、特に前立腺癌に関連する症例検討会と講演会を行っている。

7. 学問的姿勢について

(1) 修得内容

優れた泌尿器科専門医となるためには、問題解決型の思考・学術集会への参加を通じて学問的姿勢の基本を修得することが必要である。

具体的には以下の項目に留意して、研修修了後も生涯にわたって持続する学問的姿勢の基本を修得する。

- 1) 日常臨床において遭遇する疑問点について、診療ガイドライン、文献検索により情報を収集し、EBMにもとづいた臨床判断を行うような習慣を修得する。
- 2) 基幹施設である関西医科大学付属病院腎泌尿器外科、および連携施設との合同カンファレンスにおいては、症例のプレゼンテーション・検討において常に EBM に基づいた評価と判断を行う訓練を行う。
- 3) 日本泌尿器科学会が実施する学術集会に加え、関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムで実施する関連病院合同研究会（年5回程度）に参加し、泌尿器科領域における最先端の情報を学ぶ。
- 4) 関西医科大学腎泌尿器外科および連携施設で実施する多施設共同研究、臨床治験の1件以上に参加し、臨床試験・治験の意義、臨床試験プロトコール、患者説明・同意書の基本的理念について学習する。
- 5) 下記「(2) 学術活動に関する研修計画」に示す内容に沿って行う学術活動の実践による、リサーチマインドの養成を行う。

(2) 学術活動に関する研修計画

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムでは、専門研修期間中に筆頭者として学会発表、論文発表を行うことが必要である。研修期間中に行うべき学術活動の基準を下記に示す。

- 1) 学会での発表：日本泌尿器科学会が示す学会における演題発表として、筆頭演者で2回以上。
- 2) 論文発表：査読制を敷いている医学雑誌への投稿、筆頭著者の場合は1編以上、共著者の場合は2編以上。
- 3) 研究参画：関西医科大学腎泌尿器外科および連携施設で実施する多施設共同研究、臨床治験への参加、1件以上。

8. コアコンピテンシーの研修計画

泌尿器科領域では、患者・家族との良好な人間関係の確立、チーム医療の実践、安全管理や危機管理への参画、を通じて医師としての倫理性、社会性などを修得する。

詳細は専攻医研修マニュアルの「個別目標 4. 倫理観と医療のプロフェッショナルリズム」(18～19頁)を参照のこと。

内容を具体的に示す。

1) 患者-医師関係

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につける。医師、患者、家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームドコンセントを実施する。守秘義務を果たしプライバシーに配慮する。

2) 安全管理（リスクマネジメント）

医療安全、院内感染対策、個人情報保護についての考え方を理解し、実践する。特に、医療安全・感染対策は、医療の実践の根幹にかかわる要件である。専攻医は研修中に、医療の質・安全管理部、および院内感染対策室の活動（院内講習会、医局リスクマネージャの補助、等）に参加し、医療安全・院内感染対策について質の高い学習を行うよう指導する。また、学習したノンテクニカルスキル、チームステップを含む医療安全のための知識・技術を日常診療において実践する。

3) チーム医療

チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動する。指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションが可能である。他のメディカルスタッフと協調して診療にあたることになる。後輩医師に対しては積極的に教育的指導を行う。

4) 社会性

保健医療や主たる医療法規を理解し、遵守する。健康保険制度を理解し保健医療をメディカルスタッフと協調し実践する。医師法・医療法、健康保険法、国民健康保険法、老人保健法を理解する。診断書、証明書を記載する。

コアコンピテンシー（医療安全、医療倫理、感染対策）に関しては日本泌尿器科学会総会、各地区総会で卒後教育プログラムとして開催されているので積極的にこれらのプログラムを受講する。

9. 地域医療における施設群の役割・地域医療に関する研修計画

(1) 地域医療と地域連携の重要性

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムは、関西医科大学附属病院を基幹施設とし、分院である関西医科大学総合医療センター、香里病院を含む9の連携施設と3つの協力施設を含む合計13施設から構成されている。これらの連携施設は、おもには大阪市およびその近郊に位置し、都市型の医療圏の中で、地域の泌尿器医療を支える拠点となっている。都市型の医療圏とはいえ、これらの地域においても泌尿器科医の数は十分ではなく、泌尿器科医が常勤していない病院が多く存在する。そのため、泌尿器科医が不在の施設または不足している施設へ基幹施設と連携施設から泌尿器科医を派遣し、地域の泌尿器科診療を守り、維持することが大きな使命となっている。また、非都市型の医療圏での地域医療の実際を経験するため、京都府の北部にある丹後中央病院もプログラムを形成する連携施設であり、多様な医療を学ぶ機会も含まれている。

泌尿器科には高齢患者が多く、泌尿器科以外の診療科や施設などとの連携が求められることが多い。そのため、関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムでは、拠点病院以外の医療圏にある研修連携施設において研修し、周辺の医療施設との病診連携および病病連携の実際を経験することが必要であると考える。

このように、地域の泌尿器科医療を守り、地域医療に貢献し、ひいては国民の健康・福祉の増進に貢献する観点から、以下の研修を行う。

- ・ 拠点病院から周辺の関連施設に出向き、初期対応としての疾病の診断を行い、また予防医療の観点から地域住民の健康指導を行い、自立して責任をもって医師として行動することを学ぶ。
- ・ 研修施設群の中の地域中核病院における外来診療、夜間当直、救急疾患への対応などを通して地域医療の実状と求められている医療について学ぶ。
- ・ 3年目以降で泌尿器科専門医が不在の病院・診療所等で週1回外来泌尿器科診療を行う。
- ・ 泌尿器科専門医が常勤または開設している病院、診療所で、週に1回泌尿器科診療を行う。

基本的には症例の多い拠点病院での効率的な研修を主とするが、同時に泌尿器科医が不在の施設または不足している施設へ定期的に出向し地域医療の現状についても理解を深めるよう配慮している。

(2) 地域医療における指導の質保証

研修基幹施設と連携施設における指導の共有化をめざすために以下のような企画を実施する。

- ・ 研修プログラムで研修する専攻医を集めての講演会や hands-on-seminar などを開催し、教育内容の共通化を図る。
- ・ 専門研修指導医の訪問による専攻医指導の機会を設ける。

10. 専攻医研修ローテーション

(1) 基本的なローテーション

- 専門研修 1 年目 関西医科大学附属病院での研修
 - ・ 泌尿器科的基礎知識と技能の習得
- 専門研修 2、3 年目 連携施設（9 施設）での研修
 - ・ 症例の多い拠点病院での一般的な泌尿器科診療の研鑽
 - ・ 泌尿器科的基本知識と技能の習得
 - ・ 協力施設での診療経験を通じて地域医療の実際を学ぶ
- 専門研修 4 年目 関西医科大学附属病院での研修

- ・ 専攻医研修の総括と後進の指導
- ・ サブスペシャリティー分野の取り組み
- ・ 協力施設での診療経験を通じて地域医療の実際を学ぶ

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムでは、基本的には4年間のうち1年次の研修を基幹施設（関西医科大学附属病院腎泌尿器外科）で行う。その後2年次、3年次の研修は連携施設の中でも特に症例の多い拠点病院で研修を継続し、4年次の研修は基幹施設で行う。希望があれば研修4年目から大学院に進学する可能性がある。基幹施設および9の連携施設と3つの協力施設は都会拠点病院、都会型診療所、地域型拠点病院から構成される。専攻医はロボット支援手術や腹腔鏡手術などの最先端医療、女性泌尿器科、透析医療、移植医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャリティー領域の研修も十分に経験できる。特に一般的な拠点病院では経験しにくい小児泌尿器科については、あいち小児保健医療総合センターが連携施設に加わり、万全な体制となっている。施設全体での年間手術件数は約2500件にのぼり、質的にも量的にも十分な研修が可能である。年次毎の研修計画については、「5. 専門知識・専門技能の習得計画（3）年次毎の専門研修計画」を参照のこと。

(2) 連携施設について

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムは基幹施設である関西医科大学附属病院と9の連携施設、および3つの協力施設から構成される。すべての施設に泌尿器科指導医が常勤している。以下の表に示すように、施設毎に様々な病院機能を有し、一般泌尿器科以外に、泌尿器科特殊専門領域についても診療を行う施設があるため、サブスペシャリティー領域の研修も可能である。基本的には症例の多い拠点病院での効率的な研修を行うこととするが、同時に泌尿器科医が不在の施設または不足している施設へ定期的に出向し地域医療の現状についても理解を深めることが重要である。各連携施設と協力施設の所在については以下の地図を参照のこと。

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラム基幹・連携施設

施設名	日本泌尿器科学会教育施設	年間手術件数	腹腔鏡手術	ロボット支援手術	体外衝撃波治療	透析	その他
関西医科大学附属病院	拠点	1200	○	○	○	○	生殖医療 腎センター 腎移植
関西医科大学総合医療センター	拠点	660	○		○	○	結石治療センター
関西医科大学香里病院	拠点	188	○			○	

施設名	日本泌尿器科学会 教育施設	年間 手術 件数	腹腔鏡 手術	ロボッ ト支援 手術	体外衝撃 波治療	透 析	その他
社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会野江病院	拠点	360	○		○	○	
社会福祉法人恩賜財団 大阪府済生会泉尾病院	拠点	264	○		○	○	
医療法人彩樹 守口敬任会病院	拠点	144				○	
生活協同組合 ヘルスコープおおさか コープおおさか病院	拠点	72			○	○	
社会医療法人若弘会 若草第一病院	拠点	240	○			○	
公益財団法人 丹後中央病院	拠点	240					
あいち小児保健医療総合センター	拠点	300					小児泌尿器

(3) 協力施設について

本プログラムでは、連携施設ではないが、泌尿器科専門研修に必要な特徴、診療内容を有する研修協力施設が、専攻医の研修に参加する。

協力施設	所在地	研修内容
医療法人門真クリニック あいわ診療所	〒571-0048 大阪府門真市新橋町2番12号	透析・腎不全診療 地域泌尿器科診療
医療法人みどり会 中村病院	〒573-0104 大阪府枚方市長尾播磨谷1-2834-5	療養施設での排尿管理など 地域泌尿器科診療
社会医療法人信愛会 交野病院	〒576-0043 大阪府交野市松塚39番1号	泌尿器科診療一般 地域泌尿器科診療



- ① 関西医科大学附属病院腎泌尿器外科
- ② 関西医科大学総合医療センター腎泌尿器外科
- ③ 関西医科大学香里病院腎泌尿器外科
- ④ 社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会野江病院
- ⑤ 社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会泉尾病院
- ⑥ 医療法人 彩樹 守口敬任会病院
- ⑦ 社会医療法人 若弘会 若草第一病院
- ⑧ 生活協同組合 ヘルスコープおおさか コープおおさか病院
- ⑨ 公益財団法人 丹後中央病院
- ⑩ あいち小児保健医療総合センター

11. 専攻医の評価時期と方法

専門研修中の専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹である。評価は形成的評価（専攻医に対してフィードバックを行い、自己の成長や達成度を把握できるように指導を行う）と総括的評価（専門研修期間全体を総括しての評価）からなる。

(1) 形成的評価

年2回（9月と3月）、指導医による形成的評価とそれに基づく各地域プログラム管理委員会による評価を実施する。さらに、年1回（12月）、関西医科大学泌尿器科専門研修施設群の各連携施設担当者による全体会議を行い、各専攻医の評価を行うとともに、各専攻医の研修の課題、方向性について検討を行う。

以下に具体的方法を示す。

- 1) 評価項目は、コアコンピテンシー項目と泌尿器科専門知識および技能とする。
- 2) 指導医による形成的評価は、項目毎に専攻医に対してフィードバックし、自己の成長や達成度を把握できるようにする。
- 3) 研修管理委員会は年に1回開催し、研修記録簿のチェックし専門研修が順調に進んでいるかどうかを管理する。

(2) 総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

最終研修年度（専門研修4年目）の3月に研修期間中の研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙を総合的に評価し、専門的知識、専門的技能、医師として備えるべき態度を習得したかどうかを判定する。また、ローテーション終了時や年次終了時等の区切りで行う形成的評価も参考にして総括的評価を行う。

最終的に修了可能と判断された専攻医は学会での専門医判定のための申請を行う（詳細については学会のホームページを参照）。

2) 評価の責任者

専門研修期間全体を総括しての評価はプログラム統括責任者が行う。また、年次毎の評価も当該研修施設の指導責任者による評価を参考にプログラム統括責任者が行う。

12. 専門研修施設群の概要

(1) 専門研修基幹施設の認定基準

泌尿器科専門研修プログラム整備基準では専門研修基幹施設の認定基準を以下のように定めている。

- 1) 専門研修プログラムを管理し、当該プログラムに参加する専攻医および専門研修連携施設を統括する。

- 2) 初期臨床研修の基幹型臨床研修病院の指定基準（十分な指導医数、図書館設置、CPCなどの定期開催など）を満たす教育病院としての水準が保証されている。
- 3) 日本泌尿器科学会拠点教育施設である。
- 4) 全身麻酔・硬膜外麻酔・腰椎麻酔で行う泌尿器科手術が年間80件以上である。
- 5) 泌尿器科指導医が1名以上常勤医師として在籍している。
- 6) 認定は日本泌尿器科学会が定める専門研修基幹施設の認定基準に従い、日本泌尿器科学会が行う。
- 7) 研修内容に関する監査・調査に対応出来る体制を備えていること。
- 8) 施設実地調査(サイトビジット)による評価に対応できる。

本プログラムの研修基幹施設である関西医科大学附属病院は以上の要件を全て満たしている。

(2) 専門研修連携施設の認定基準

泌尿器科専門研修プログラム整備基準では専門研修連携施設の認定基準を以下のように定めている。

- 1) 専門性および地域性から当該専門研修プログラムで必要とされる施設であること。
- 2) 研修連携施設は専門研修基幹施設が定めた専門研修プログラムに協力して専攻医に専門研修を提供する。
- 3) 日本泌尿器科学会拠点教育施設あるいは関連教育施設である。
- 4) 認定は日本泌尿器科学会が定める専門研修連携施設の認定基準に従い、日本泌尿器科学会が行う。

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムに属する基幹施設および連携施設の10施設では、すべての施設において泌尿器科指導医が常勤している。これらの病院群は上記の認定基準をみたしている。

(3) 専門研修指導医の基準

泌尿器科専門研修プログラム整備基準では専門研修指導医の基準を以下のように定めている。

- 1) 専門研修指導医とは、専門医の資格を持ち、十分な診療経験を有しかつ教育指導能力を有する医師である。
- 2) 専攻医研修施設において常勤泌尿器科医師として5年以上泌尿器科の診療に従事していること（合計5年以上であれば転勤による施設移動があっても基準を満たすこととする）。
- 3) 泌尿器科に関する論文業績等が基準を満たしていること。基準とは、泌尿器科に関する学術論文、学術著書等または泌尿器科学会を含む関連学術集会での発表が5件以上あり、そのうち1件は筆頭著者あるいは筆頭演者としての発表であること。
- 4) 泌尿器科学会が認める指導医講習会を5年間に1回以上受講していること。

5) 日本泌尿器科学会が認定する指導医はこれらの基準を満たしているので、本研修プログラムの指導医の基準も満たすものとする。

関西医科大学泌尿器科研修プログラムに属する基幹施設、研修連携施設は10あるが、すべての施設において日本泌尿器科学会が認定する泌尿器科指導医が常勤しているため以上の基準を満たしている。

(4) 専門研修施設群の構成要件

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムは、専攻医と各施設の情報を定期的に共有するために本研修プログラム管理委員会を毎年1回開催する。基幹施設、連携施設ともに、毎年3月30日までに前年度の診療実績および病院の状況に関し添付資料5に示すような様式で本研修プログラム管理委員会に以下の報告を行う。

- 1) 病院の概況：病院全体での病床数、特色、施設状況（日本泌尿器科学会での施設区分、症例検討会や合同カンファレンスの有無、図書館や文献検索システムの有無、医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会の有無）
- 2) 診療実績：泌尿器科指導医数、専攻医の指導実績、次年度の専攻医受け入れ可能人数、代表的な泌尿器科疾患数、泌尿器科検査・手技の数、泌尿器科手術数（一般的な手術と専門的な手術）
- 3) 学術活動：今年度の学会発表と論文発表
- 4) Subspecialty 領域の専門医数

(5) 専門研修施設群の地理的範囲

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムは、関西医科大学附属病院を基幹施設とし、9の連携施設、および3つの協力施設を含む合計13施設から構成されている。関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムの連携施設は都会拠点病院、地域型拠点病院、都会診療所を含み、大阪府内のみならず京都府丹後地方、愛知県大府市にも存在する。「10. 専攻医研修ローテーション (2) 連携施設について」に地図が掲載されているので参照のこと。

(6) 専攻医受け入れ数についての基準

平成29年4月開始の専攻医については、上限を定めない。2017年度の募集に関しては柔軟に対応する。

(7) 地域医療・地域連携への対応

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムの連携施設と協力施設は都会拠点病院、地域拠点病院、都会型診療所、地域型拠点病院を含み、大阪府内のみならず京都府丹後地方にも存在する。都市、地方にかかわらず泌尿器科医は不足しており、泌尿器科医が常勤していない地方拠点病院が多く存在する。そのため、泌尿器科医が不在の施設または不足している施設へ基幹施設と連携施設から泌尿器科医を派遣し、泌尿器科診療を行って地域医療を守っているのが現状である。

また、泌尿器科には高齢患者が多く、泌尿器科以外の診療科や施設などとの連携が求められている。本プログラムでは、地域医療における泌尿器科診療の役割を重視し、周辺の医療施設との病診・病病連携の実際を経験することによって、地域医療・地域連携に対応できる能力を有する泌尿器科専門医の養成を重要な目標と考えている。「9. 地域医療における施設群の役割・地域医療に関する研修計画」の項に記載された計画に沿って、地域医療・地域連携に対応できる泌尿器科専門医の育成を行う。

13. 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する診療領域ごとの専門研修プログラム管理委員会を設置する。研修プログラム管理委員会は、研修プログラム統括責任者、研修プログラム連携施設担当者等で構成され、専攻医および研修プログラム全般の管理と、研修プログラムの継続的改良を行う。研修プログラムの改善のためには専攻医による指導医・指導体制等に対する評価が必須であり、双方向の評価システムにより互いのフィードバックから研修プログラムの改善を行う。研修プログラム管理委員会は、少なくとも年に1回開催する。以下にその具体的な内容を示す。

(1) 専門研修プログラムの管理運営体制の基準

- 1) 研修基幹施設および研修連携施設は、それぞれの指導医および施設責任者の協力により専攻医の評価ができる体制を整備する。
- 2) 専門研修プログラムの管理には専攻医による指導医・指導体制等に対する評価も含める。
- 3) 双方向の評価システムにより互いのフィードバックから研修プログラムの改善を行う。
- 4) 上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する診療領域ごとの研修プログラム管理委員会を置く。
- 5) 専門研修基幹施設のプログラムごとに、各診療領域専門研修プログラム統括責任者を置く。

(2) 研修基幹施設の役割

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムの基幹施設の役割。

- 1) 研修基幹施設は専門研修プログラムを管理し、当該プログラムに参加する専攻医および専門研修連携施設を統括する。
- 2) 研修基幹施設は各専門研修施設が研修のどの領域を担当するかをプログラムに明示するとともに研修環境を整備する責任を負う。

(3) 研修プログラム委員会の役割

- ① プログラムの作成

- ② 専攻医の学習機会の確保
- ③ 専攻医及び指導医から提出される評価報告書にもとづき専攻医および指導医に対して必要な助言を行う。またプログラム自身に改善の余地がある場合はこれを検討する。
- ④ 継続的、定期的に専攻医の研修状況を把握するシステムの構築
- ⑤ 適切な評価の保証
- ⑥ プログラム統括責任者は専門研修プログラム管理委員会における評価にもとづいて修了の判定を行う。

(4) プログラム統括責任者の基準

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムにおけるプログラム統括責任者の基準は下記の通りとし、これらの基準を満たす専門研修指導医をプログラム統括責任者とする。

- 1) 専門医の資格を持ち、専攻医研修施設において常勤泌尿器科医師として10年以上診療経験を有する専門研修指導医である（合計10年以上であれば転勤による施設移動があっても基準を満たすこととする）。
- 2) 教育指導の能力を証明する学習歴として泌尿器科領域の学位を取得していること。
- 3) 診療領域に関する一定の研究業績として査読を有する泌尿器科領域の学术论文を筆頭著者あるいは責任著者として5件以上発表していること。
- 4) プログラム統括責任者は泌尿器科指導医であることが望ましい。

14. 専門研修指導医の研修計画

指導医はよりよい専門医研修プログラムの作成のために指導医講習会などの機会を利用してフィードバック法を学習する必要がある。具体的には以下の事項を遵守するものとする。

- 1) 指導医は日本泌尿器科学会で実施する指導医講習会に少なくとも5年間に1回は参加する。
- 2) 指導医は総会や地方総会で実施されている教育 skill や評価法などに関する講習会を1年に1回受講する（e-ラーニングが整備された場合、これによる受講も可能とする）。
- 3) 基幹教育施設で設けられている指導者研修計画（FD Faculty Development）に関する講習会に機会を見て参加する。

15. 専攻医の就業環境について

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムでは労働環境、労働安全、勤務条件等で以下のことを配慮する。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に務める。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮しなければならない。

- 3) 勤務時間は週に 40 時間を基本とし、時間外勤務は月に 80 時間を超えないものとする。
- 4) 勉学のために自発的に時間外勤務を行うことは考えられることではあるが、心身の健康に支障をきたさないように配慮する。
- 5) 当直業務と夜間診療業務は区別しなければならず、それぞれに対応した適切な対価が支給されること。
- 6) 当直あるいは夜間診療業務に対して適切なバックアップ体制を整えること。
- 7) 過重な勤務とならないように適切な休日をの保証について明示すること。
- 8) 施設の給与体系を明示すること。

16. 泌尿器科研修の中止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の

条件

専門研修中の特別な事情への対処に関しては、日本泌尿器科学会専門医制度についての申し合わせ事項（日本泌尿器科学会ウェブサイト <https://www.urol.or.jp/specialist/system/rule.html>）に準ずる。

また専門研修プログラムの移動は、移動前・後の両プログラム統括責任者の話し合いで行う。ただし、移動の内容に関しては日本泌尿器科学会事務局まで連絡すること。

17. 専門研修プログラムの改善方法

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムでは、各指導医からの助言とともに、専攻医からの双方向的な評価とフィードバックにもとづいて、より良いプログラムへと継続的な改善を図る。

18. 専門研修に関するマニュアルおよび研修記録簿について

研修実績および評価の記録

研修記録簿に記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。

研修プログラム管理委員会が、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

19. 専攻医の募集および採用方法

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラム管理委員会は、毎年9月初旬から説明会等を行い、泌尿器科専攻医を募集する。なお、専門研修プログラムは日本泌尿器科学会、関西医科大学腎泌尿器外科、関西医科大学卒後臨床研修センターのウェブサイトに公布する。

- (1) 日本泌尿器科学会のホームページ
(https://www.urol.or.jp/specialist/system/about_new.html)
- (2) 関西医科大学腎泌尿器外科学講座のホームページ
(<http://www7.kmu.ac.jp/urology/study.php>)
- (3) 関西医科大学卒後臨床研修センター (<http://www.kmu.ac.jp/residency/>)

プログラムの応募者はプログラム担当者に連絡してください。

- (1) 電話で問い合わせ(072-804-0101(代表))
- (2) e-mail で問い合わせ (urosec@hirakata.kmu.ac.jp)

のいずれの方法でも可能である (e-mail の件名に “関西医科大学泌尿器科専門研修プログラム応募申請書について”と明記してください)。原則として12月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知する。応募者および選考結果については12月の関西医科大学泌尿器科専門研修プログラム管理委員会において報告する。

研修を開始した専攻医には研修を開始した年度の4月初旬に学会から、専門研修に関する案内が届くので、内容に従って研修開始宣言を行うこと。研修開始宣言に必要な事項は以下の4項目である。

- 日本泌尿器科学会への入会 (ホームページから手続き可能)
- JUA academy へのアクセス権の取得 (入会後に手続き可能)
- 研修開始登録書
- 初期研修修了の証明 (臨床研修修了証・臨床研修修了登録証)

20. 専攻医の修了要件

関西医科大学泌尿器科専門研修プログラムでは以下の全てを満たすことを修了要件とする。

(1) 4つのコアコンピテンシー全てに関して、専攻医による自己評価および指導医による指導医評価を行う。詳細は研修記録簿の「専門医研修における研修目標 (20～29頁) (日本泌尿器科学会ウェブサイト <https://www.urol.or.jp/specialist/data/2013objective.pdf> に掲載) を参照のこと。

- 1) 泌尿器科専門知識
- 2) 泌尿器科専門技能

- 3) 継続的な科学的探求心の涵養
- 4) 倫理観と医療のプロフェッショナルリズム

(2) 手術に関する研修目標

- 1) 一般的な手術：術者として 50 例以上
- 2) 専門的な手術：術者あるいは助手として 1 領域 10 例以上を最低 2 領域かつ合計 30 例以上

(3) 経験目標

- 1) 経験目標：頻度の高い全ての疾患で経験症例数が各 2 症例以上
- 2) 経験目標：経験すべき診察・検査等についてその経験数が各 2 回以上

(4) 教育プログラム・学術集会への参加、業績発表による研修単位の取得：100 単位

専門医初回申請に関してはプログラムへの参加から修了までの 4 年間に 100 単位の研修取得が必要です。またこのためには日本泌尿器科学会への入会と教育プログラム受講や研修単位管理に必要な JUA Academy に参加しておくことが必要です。

研修単位の詳細に関しては研修記録簿の 17-19 頁および日本泌尿器科学会ウェブサイト

(<https://www.urol.or.jp/specialist/system/unit.html>) に記載されていますので参照してください。実際の申請にあたっては研修記録簿の 34-37 頁に単位取得に関する記録の頁がありますのでここへ記載して提出していただく必要があります。総会や地区総会、卒後教育プログラムなどの参加、受講に関しては、会場での会員カード等による単位登録を忘れないようにしてください。自動登録された研修単位に関しては日本泌尿器科学会のホームページの中の「JUA academy」で自動的に反映されますのでご活用ください。詳細につきましては日本泌尿器科学会のウェブサイトを確認してください。不明な場合は学会事務局内の専門医制度審議会 (senmoni@urol.or.jp) までメールでお問い合わせください。